

インフルエンザの患者さんをご家族へ

20歳未満の患者さん向けに

■ 患者さんと、介護をされる方への注意点

- 水分をよくとるようにして、安静にして、自宅療養して下さい。
- 他の人にうつさないために、誰かが同室にいる場合や外出時には、ご本人にはマスクをするようにしてください。ただし、乳児や、小さなお子さんで息苦しい場合はしないで下さい。せきやくしゃみは、人のいない方に向かってするように注意しましょう
- 手洗いをよくしましょう
- 入浴は、身体が楽なときはかまいません。あまり長湯しないように、また湯冷めしないように注意。寒気が強いときや、からだがしんどいときはやめておきましょう。
- 介護の方は、子供さんの様子をよく観察して下さい。特に熱発して2日間程度は、極力目の届く範囲にいてください。以下の症状などで、病状が良くならない場合は、再度受診して下さい。受診前に電話で連絡をお願いします。
 - ◇ 呼吸が速い、息苦しそうにしている。顔色が悪い(土気色、青白いなど)。嘔吐や下痢が続いている。落ち着きがない、遊ばない。反応が鈍い、呼びかけに答えない、意味不明の言動がみられる。症状が長引いて悪化してきた。
- 自宅療養の期間は？
 - ◇ インフルエンザでは、発症(熱発)して5日を経過し、かつ、解熱したあと2日(幼児の場合は、3日)を経過するまで、自宅療養が必要とされています。

■ 家庭内での感染予防について

- 患者さんと接触する介護者は、マスクをしたほうが良いでしょう。
- 同居の方は、手洗いとうがいを徹底しましょう
- 家族の中で、熱、せき、のどの痛み、さむけ、節々が痛いなどの症状が出た場合は、早めに受診して下さい。
- インフルエンザにかかると重症化するリスクが高いのは、下記のような方です。患者さんとは極力接触しないように気をつけて下さい。
 - ◇ 慢性呼吸器病、慢性心臓病、糖尿病、腎機能障害(透析中の方)、関節リウマチ、ステロイドホルモンなど免疫を抑制する薬を使っておられる方。その他免疫力が低下している病気の患者さん
 - ◇ 妊婦、乳幼児、高齢者